

第5章 平成4年度山口大学構内の立会調査

第1節 吉田構内の立会調査

1 交通規制標識及びバリカー設置に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-10, S-19・20, P-22, H-23

調査期間 平成4年4月20・21日, 同5月7日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 各標識 約5m², 各バリカー 約2.5m²

調査結果 工事は、吉田構内の各入り口に交通規制用の標識及びバリカーを設置するため、標識支柱の基礎となる部分についてはそれぞれ直径70cmの円形に現地表から約70cm、バリカー支柱の基礎となる部分についてはそれぞれ2カ所35cm×35cmの範囲で現地表から約1m掘り下げるといものである。標識は、L-10・S-20・P-22・H-23区に、バリカーはL-10・S-19・P-22区に設置され、これらについて立会調査を実施する事とした。

L-10区の標識設置地点では、現地表より50cm下に黒褐色粘質土の攪乱層があった。バリカー設置地点では、現地表より90cm下に明黄褐色粘土の攪乱層を確認した。S-20区の標識設置地点では、現地表より50cm下に茶灰色粘土の地山を確認した。S-19区のバリカー設置地点では、現地表より南側で50cm下に、北側で70cm下に明黄色粘質土の地山を確認した。P-22区の標識設置地点では、現地表より46cm下に厚さ20cmほどの淡黄灰色粘質土層、そして、緑灰色シルト層が続くことが確認できた。バリカー設置地点では、現地表より80cm下に標識設置地点とおなじ緑灰色シルト層を確認した。H-23区の標識設置地点では、現地表より55cm下に黒灰色粘質土の堆積を確認した。この黒灰色粘質土には摩耗した弥生土器片が含まれており、遺物包含層の可能性がある。

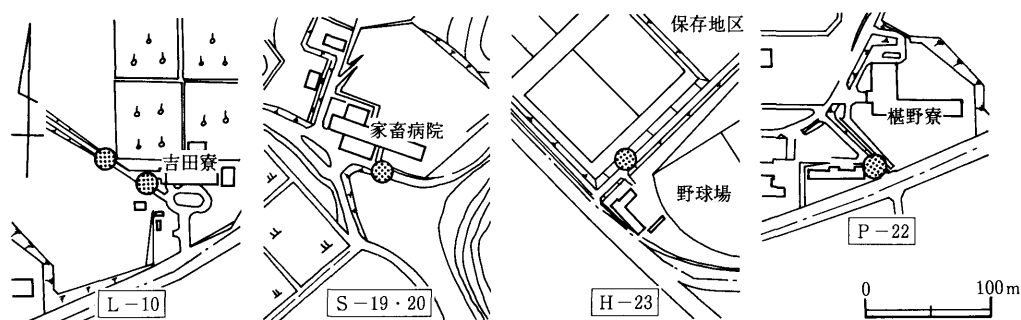


Fig. 55 調査区位置図

2 道路（南門ロータリー）取設に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-23

調査期間 平成4年4月28日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約40m²

調査結果 工事は吉田構内交通規制の強化に伴い、無許可の進入車を校外へUターンさせるために、南門と野球場の間にある空き地にロータリーを取設するというものである。起伏のある現地表を機械力により上面掘削する程度で、地下への影響はほとんど及ばないことが予想された。しかし、本調査区の南側で平成元年度におこなった、野球場防球ネット新営に伴う立会調査¹⁾では遺物包含層を検出していることもあり、状況把握のため立会調査をおこなった。

起伏を平滑にする程度のため、現地表より10~20cm程を掘削するにとどまった。このため、土層は表土及び整地土の上面を確認したのみである。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「野球場防球ネット新営に伴う立会調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報』IX、1991年)

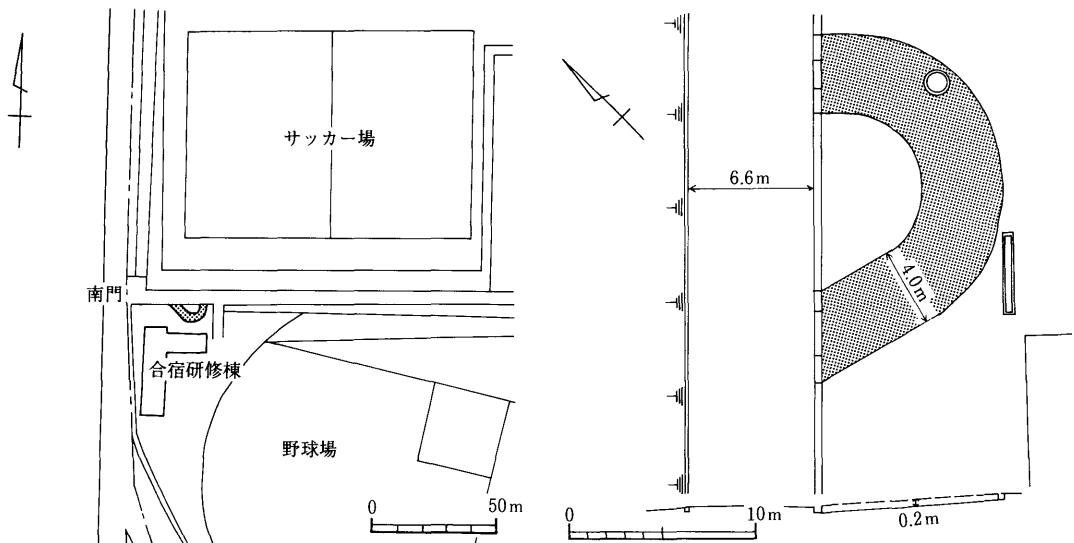


Fig. 56 調査区位置図

3 ボイラー室給水管漏水補修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 P-16

調査期間 平成4年5月15日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約4 m²

調査結果 工事は、吉田構内ボイラー室の北側に埋設されていたボイラー室給水管が老朽により漏水をおこした為、緊急に新給水管に付け替えをおこなったものである。立会調査は、新給水管の埋設工事部分幅約80cm、長さ約5 m、深さ1 mについて緊急に実施した。

その結果、厚さ約10cmの表土層の下に、約50cmの厚さの構内造成時の埋め土があった。埋め土の下には、これも攪乱土とおぼしき茶灰色粘質土層があり、茶灰色粘質土の下、地表より90cm下に旧水田耕土層である暗褐色粘質土を確認した。

ボイラー室周辺では、昭和60年度にボイラー室南東隅で立会調査が行われている。この調査では、地表下30cmの埋め土と、その下に遺物を含んだ灰黒色砂礫土を確認している。ボイラー室の北側と南東隅の間には高低差があり、ただちに今回の調査と昭和60年度の調査を対応させることは難しい。その他には、本調査地の道を挟んだ東側にある農学部農業環境観測実験施設が、昭和56年度に建設に先だって発掘調査¹⁾がおこなわれている。高低差や、層の厚さに違いはあるが、旧水田耕土に至るまでの基本層序は、10年の年月の間に堆積した10cmの表土層を除けば、両者とも同じであると考えられる。昭和56年度におこなわれた農業環境観測実験施設新営に伴う発掘調査では、旧水田耕土の下に遺構が検出されており、本調査地も旧水田耕土の下に遺構が保存されている可能性は高いと言える。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内農学部農業環境観測実験施設新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報』X、1992年)

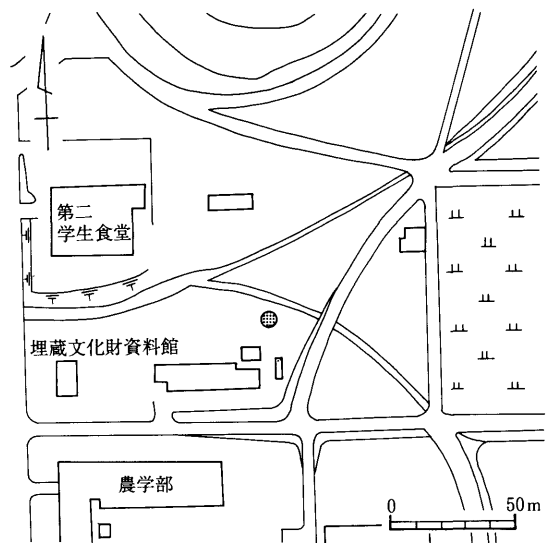


Fig. 57 調査区位置図

4 農学部附属農場ガラス室新営その他工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 S-13

調査期間 平成4年6月8日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約3.5㎡

調査結果 工事は、一昨年(平成3年)台風で倒壊し、新営した農学部附属農場ガラス室に、実習棟から新規の電気ケーブルを埋設するというものである。立会調査は、新規電気ケーブル埋設部分である実習棟からガラス室までの長さ約7m、幅約50cmについて実施した。

電気ケーブルの埋設が地表より深さ約35cmであったため、厚さ約25cmの表土とその下の廃材などが混じった山土の埋め土を確認するだけにとどまった。

本調査地より60m程丘陵側の農道で、昭和61年度に立会調査¹⁾がおこなわれている。この調査でも、地表から地山まで約70cmの厚さで埋め土がつづいていることが確認されている。農場が所在する丘陵西辺部では、大規模な削平が行われていることが予想される。しかし、牛舎の敷地部分の調査では、弥生時代の溝・土壟、古墳時代の竪穴住居を検出したとされており、今後この地域での埋蔵文化財の残存状況を把握していくことが必要である。

[注]

1) 山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属農場水道管埋設に伴う立会調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報』VI、1987年)

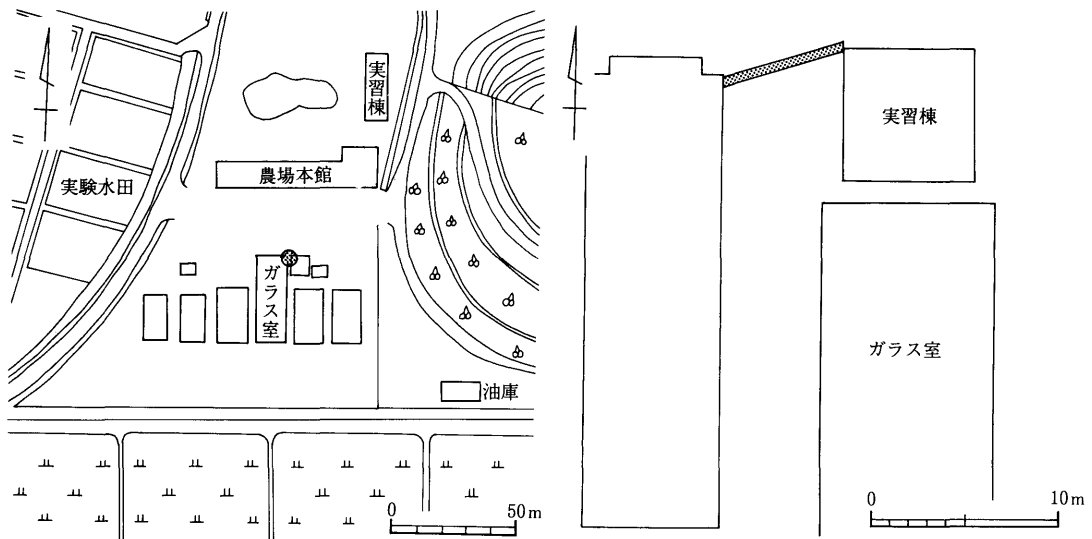


Fig. 58 調査区位置図

5 大学会館前記念植樹の植え込みに伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L・M-15

調査期間 平成4年6月9日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約3m²

調査結果 工事は上下二段にわたって造成されている大学会館前庭部の下段部分に、記念植樹の植え込みを行うものである。上段との境にはしる下段部の遊歩道に沿って、西側に計3本の記念植樹が計画され立会調査を行った。いずれの掘削も直径1mの円形で、地表より約30cmを掘り下げる程度のものであった。地表より下は厚さ30cmでマサ土が敷かれており、今回の掘削ではマサ土の下に旧表土である茶灰色粘質土の上面を確認するにとどまった。

なお、本地はすでに試掘調査の結果から、遺物包含層及び遺構面の深度データが提出されている。環境整備の計画は、このデータをもとにおこなわれることが原則となっている。今回も、埋蔵文化財資料館と大学施設部の間で検討がなされ、遺構・包含層に影響が及ばない場所が選ばれた。今後ともこの基本方針が遵守されていくことが望ましい。また、植物の根の成長による地下への影響も充分配慮したうえでの植樹が必要である。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田大学会館
環境整備に伴う試掘調査」(『山口大学構内
遺跡調査研究年報』V、1986年)

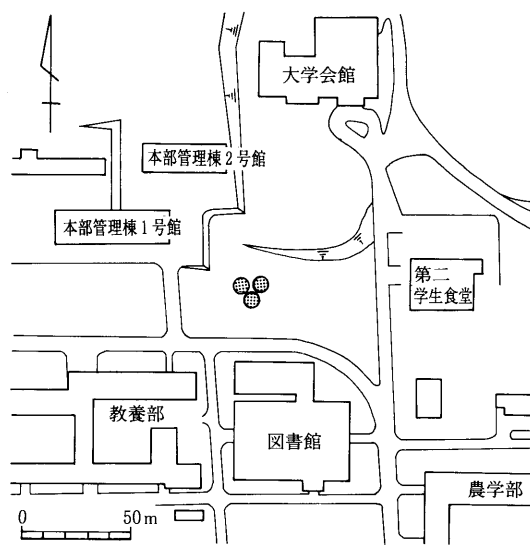


Fig. 59 調査区位置図

6 泉町平川線緊急地方道路整備工事に伴う立会調査

山口大学吉田団地環境整備（正門周辺）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-11

調査期間 平成4年12月4・22・24日、平成5年1月8日

調査方法 工事施工時に伴う立会調査

調査結果 工事は山口県が行った平川線道路拡幅工事に応じて、山口大学が吉田構内正門道路の拡幅及び、環境整備を行ったものである。

平成4年12月4日は、平川線と正門道路の拡幅に伴って九田川に架かる橋も拡幅する為、吉田構内側の橋台部の掘削について立会調査を行った。掘削は深さ約2mに及んだ。現地表下130cmまでは構内造成時に伴う埋め土（5YR 4/2）、旧水田耕土（10GY 5/1）及び床土（10YR 8/4）であった。その下に厚さ約20cmの黒色粘土層（10YR 2/2）があり、明茶灰色粘土層（10YR 8/8）と続く。黒色粘土層、明茶灰色粘土層ともに無遺物であった。しかし、黒色粘土層が無遺物層でないとは、言い切れない。

平成4年12月22・24日は、正門の横断側溝の付け替え工事（深さ70cm）と山口県による正門のNTT配線工事（深さ100cm）について立会調査をおこなった。本調査区は、構内造成時の埋め土が厚く、旧地表を検出するまでもいならなかった。

平成5年1月8日は、正門道路拡幅の為の擁壁工事について立会調査を行った。基礎工事のために現水田畦畔を長さ約50m、幅約1.3m、深さ約1mにわたって掘削した。本調査

区は橋台部立会調査区の延長部分であり、橋台部と同様に現地表下約1mは埋め土、旧水田耕土及び床土があり、その下に黒色粘土層（10YR 2/2）が検出された。

今回の調査で、遺構・遺物を検出することはできなかった。また、正門周辺は約1mに及ぶ盛り土がなされていることが判明した。

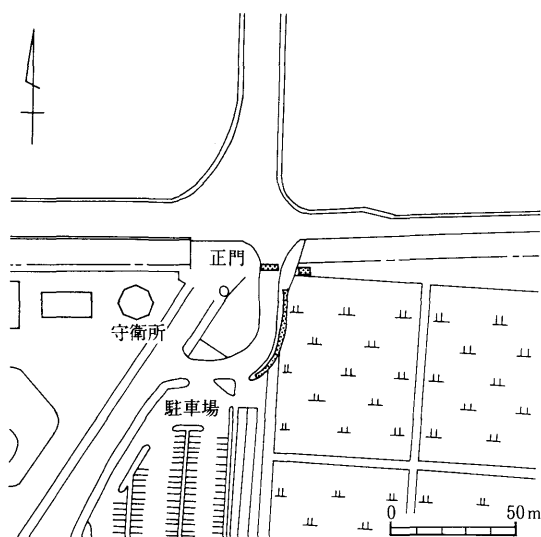


Fig. 60 調査区位置図

7 泉町平川線緊急地方道路整備工事に伴う立会調査（信号機設置）

調査地区 吉田構内 H-11

調査期間 平成5年3月5日

調査方法 工事施行時に伴う立会調査

調査面積 約7㎡

調査結果 山口県が行った平川線道路拡幅工事に伴い、吉田構内正門道路の拡幅が行われ、信号機の移築が必要となった。工事内容は正門道路をはさんだ両わきに、信号機を設置するための穴を2カ所掘削するものであった。周辺の立会調査データより、埋蔵文化財が希薄な地区であることが予想された。埋蔵文化財資料館は上記のデータをもとに、立会調査をおこなった。

東側の調査地点は、2.1m×1.9mの掘削幅で現地表面から約2.7mの深さまで掘り下げた。土層の堆積状況は、現地表～70cmが埋土と水田耕土の混合土、70～85cmが暗青灰色粘質土、85～138cmが茶灰色粘質土、138～155cmが黒色粘土（10YR 2/2）、155～230cmが明茶灰色粘土（砂混じり）、230～270cmが茶灰色砂礫である。遺構・遺物は確認できなかった。西側の調査地点は、2.0m×1.5mの掘削幅で現地表面から約1.7mの深さまで掘り下げた。この地点は、現在の正門前橋台の工事の際に攪乱を受けていた。

本調査地点と、周辺の環境整備立会調査で確認した土層堆積状況はほとんど変わらなかった。旧水田下に広がる黒色粘土層がいかにかに堆積したかは不明であるが、吉田地区の低地部に広がっているものと考えられる。この黒色粘土層が遺物包含層であるかの確認はできなかったが、色調の点からいえば吉田地区台地上の遺物包含層と類似している。今後、この黒色粘土層の広がり、性格を検討していく必要がある。

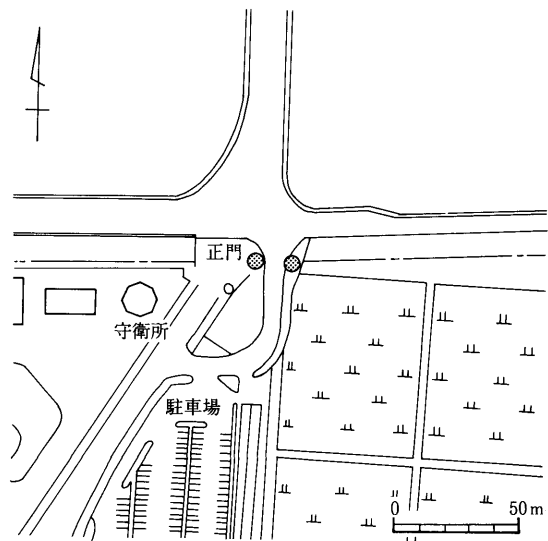


Fig. 61 調査区位置図